

## 大原野神社

大原野神社は、奈良の有名な春日大社との歴史的な繋がりから「京春日」とも呼ばれています。春日神社のご祭神は春日大明神で、この神様は伝統的に白鹿に乗った姿で描かれています。大原野神社は鹿をモチーフにした彫像やお守り、絵馬などで知られています。境内は桜やカキツバタ、睡蓮、そしてモミジの名所として人気です。参道沿いと、鳥居の外の駐車場近くにある2店舗の茶屋では、伝統的なよもぎ団子を持ち帰ったり、または参拝後の軽食として楽しむことができます。

## 歴史

現在、全国にはたくさんの春日神社があります。その中でも大原野神社は総本社である春日大社から春日大明神が遷座された最初の神社と考えられています。784年、日本の都は平城京（現在の奈良）から長岡京に遷都されました。大原野神社は、貴族である藤原氏の守護神である春日大明神を祀るために新しい中央政府に近い場所で建てられました。藤原氏一族は、何世紀にも渡って朝廷で強い影響力を持ち、多くの男性は高位に属し、多くの女性は皇后や中宮になりました。春日大社と同様に、大原野神社は国家の平和と繁栄を祈願する役割を担いました。都が794年に平安京（現在の京都）に再び遷都された後も大原野神社はその役目を果たし続けました。

## 春日大明神と藤原氏

春日大明神は、雷の神・建御賀豆智命（たけみかづちのみこと）、軍神・伊波比主命（いわいぬしのみこと）、藤原氏の祖神・天之子八根命（あめのこやねのみこと）とその妻の比賣大神（ひめおおかみ）という四柱の神様を表しています。天之子八根命（あめのこやねのみこと）の息子、天押雲根命（あめのおしくもねのみこと）はしばしば一緒に祀られています。これらの神様はいずれも日本の建国に重要な役割を果たしたと考えられています。この神々は政治や守護、知恵、そして女性の良縁に関する祈りにご利益があると言われています。

大原野神社は歴史を通じて、藤原氏の支援と皇室の庇護を受けてきました。祖父が藤原氏の当主であった文徳天皇（827年～858年）は、850年に壮麗な社殿を造営しました。藤原氏では娘が生まれると、皇后または中宮に選ばれることを願って大原野神社で祈ることが伝統となりました。願いが叶うと、神々に感謝を伝えるため、立派な行列を伴い参拝するようになりました。このような行列については、藤原分家の女官、紫式部（973年?～1014年?）が書いた『源氏物語』を含む歴史的な記録や詩、小説にも登場しています。著名な歌人、在原業平（825年～880年）は、藤原家の婦人の参拝に同行したとき、次のような歌を詠みました。

### （訳文の直訳）

小塩の山のふもとにある大原野神社の神々  
我々の今日の大行列を見て

きっと神々の時代のことを思い出すことでしょう

### **(ご参考用：原文)**

大原や  
小塩の山も  
けふこそは  
神代のことも  
おもひいづらめ

### **境内**

鳥居をくぐって神社の境内に入る参道には、鯉沢の池やそこにかかる風情のある朱色の橋があります。対岸には天押雲根命を祀る若宮神社があります。近くにある柵で囲まれたしだれ桜は、枝に丸い大きな花房がたくさん咲くことから「千眼桜」（英訳：千の目がある木）と呼ばれています。見頃の期間が 3 日間しかないことから「幻の桜」とも呼ばれています。満開の千眼桜を見られる人は、千の願いが叶うと言われています。

参道のさらに先には、水が銅製の鹿の口から流れる手水舎があります。そして左側に相撲場もあり、この相撲場は、9 月の御田刈祭で行われる大人も子どもも参加する「神相撲」の神事で使用されます。この祭は豊作を神に感謝するために開催され、1717 年以来途切れることなく続いています。

### **本殿**

参道にある三番目の鳥居の先には、1822 年に建てられた本殿があります。本殿は春日造りの様式で建てられており、中央には奉納と祈祷のための台があり、そしてその両側には二棟ずつ、合計四棟の社殿が設けられています。そして、社殿のそれぞれに春日大明神の一柱が祀られています。本殿の建物の背後にある背の高いヒノキの木は、古典的な建築物の色合いである白色・朱色と自然なコントラストを作り出しています。左側にいくつかの末社があり、病氣平癒や厄除け、五穀豊穰、商売繁盛、健康、延命長寿、そして子授けの神様が祀られています。

### **鹿の使い**

春日大明神は、藤原氏の祖先の元に白鹿に乗った姿で現れたという伝説があり、鹿が神の使いとされるようになりました。一般的に見られる神話上の獣である狛犬の代わりに雄鹿と雌鹿の石像が大原野神社の本殿を守っているのはこのためです。神社のお守りや御朱印帳、絵馬、そしておみくじも鹿をモチーフとしたものとなっています。